

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 6 年 2 月 1 日

公表: 令和 6 年 2 月 15 日

事業所名 _____

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		子どもの療育内容や様子に合わせてスペースを使うようにしている。	
	2	職員の配置数は適切である	○		利用人数・状況に合わせて配置を考えた。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		トイレはバリアフリーになっている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		日々の業務においては朝の打ち合わせ、終了後のフィードバックで実施するようになった。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			今回の評価では、「いいえ」より「分からない」が多くある。保護者にオープンにすべきものはオープンにしていきたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		小木こどもファミリークリニックのHPにて公開した。	今回も小木こどもファミリークリニックのHPにて公開する。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		研修・学会に行った場合、簡単に報告するようにした。今年は動画を使って研修を行った。	動画を使った研修は、業務の合間にできるので、外部研修に行けない場合でも参加できるので今後も続けていく。外部研修については参加方法を検討していく。
適切な 支援の	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		アセスメントは子どもの様子など、家族の様子を観察して行っている。	サービス計画に書かれている目標を達成するための細かな計画を職員間で話し合う機会を作るようにしたい。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		アセスメントツールを用いたスクリーニングを行うようにした。	ツールの使い方の統一。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		療育担当者が中心に必要なことを行うが、イベントはチームで行う。	イベントについては、職員の技術、管理意識の向上を目的として立案を経験できるようにしていきたい。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		単調な机上での療育ではなく、少人数でのグループ活動を取り入れた。	個人の目標を小さくし、スモールステップで進めるようにする。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	○			

提供	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝の打ち合わせで、必ず確認する。		
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		終了後のフィードバックを必ず行う。		
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			正しい記録を書くため、また、記録の時間を少なくするため、記録方法の変更を検討する。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		半年に一度のモニタリングは必須。状況に応じて3か月のこともあった。		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	○				
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○				
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている		○		送迎は行っていないため、情報の共有はできていないが、学校行事の日については、情報の共有を行いたい。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整え					
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○				
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		該当者なし	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			研修案内があれば、参加できる体制にする。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○			
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			積極的に参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			帰りのフィードバックを利用し、様子を伝えたり情報共有を行う。	フィードバックでは時間が足りない時は、こちらから働きかけて相談時間を作る。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			今年度、開催した。	小児科にてPRを行ったが「皆とではなく、個別に行いたい」という意見が多くあるように、積極的な利用は一件だけであった。PR方法を見直しをしていきたい。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			丁寧な説明をおこなうようにしている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			相談については月に1-2件ある状態だった。	今後も希望に合わせて行っていく。また、家族の様子から声をかけて親の話を聞いて行きたい。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		予定はしていたが、実施できなかった。	年度当初に開催時期・場所を決めて利用者にも周知を図る。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○				

寺	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		会報は発行していないので、口頭のみ。	
	35	個人情報に十分注意している	○		鍵のかかる書棚を使う。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		目につく場所に置いて、いつでも見ることができるようにしている。	避難場所や感染時の対応など、職員・保護者がすぐにわかる体制を作っていきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			避難訓練は子供だけではなく、職員も一緒に考え、どのように誘導するのか実践できるようにする。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止研修を行った。	今後も虐待防止研修を行い、意識づけを行う。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載して	○			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている				
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			「ヒヤリハットは悪いことではない」「出来事を伝えあう」という意識で情報の共有を行う。